

言語通級指導教室 自立活動学習指導案

日 時 平成27年11月6日(金)第5校時
場 所 ことばの教室(南舎2階)

1 単元名 カ行音を正しく発音しよう

2 指導の立場

(1) 単元について

本単元は、特別支援学校学習指導要領「自立活動」(別紙参照)の次の区分に位置付いている。

- | | |
|-------------|-----------------------|
| 3 人間関係の形成 | (1) 他者とのかかわりの基礎に関すること |
| 6 コミュニケーション | (2) 言語の受容と表出に関すること |

発音の誤りには、その音の出し方そのものがよく分かっていない場合や違う音に置き換えられてしまう場合、舌の緊張や動かし方が十分でないことにより息が舌の中央から出ずに横から漏れてしまう場合など様々な場合がある。発音がはっきりしなかったり、別の音に置き換えて発音したりしている児童は、集団の中での自己表現活動に支障をきたすことが考えられる。正しい発音を身に付けることは、話の内容を正確に相手に伝えるために大切である。発音の誤りの改善を図る方法は様々だが、基本は舌の動きである。舌が緊張するとその動きが滑らかにできず、舌の本来とは違う部位で息を止めたり、横から息が漏れたりすることが起こる。そこで、授業の初めには、舌をスムーズに動かすための練習や舌の動きを柔らかくする運動を行っている。

A 児に身に付けさせたい音は、[k]の音の力行である。奥舌が上がって軟口蓋(構音点)と接触し、その後ろに呼気を溜めて、舌を下げると同時に呼気を破裂させる(構音様式)無声音(声帯の振動を伴わない)である。一つの正しい音を覚えていく方法は、初めに、発音の仕方を口の図や模型などで覚える。その後、その音が正しく発音できるように練習していく。繰り返し練習することで構音の仕方を確実に覚えていく。そして、無意味音を前後に付け加えて2つの音を続け、発音時に舌等の動きに影響されないように練習していく。このように徐々に構音を確実にものとしていながら、単語から短文、そして日常会話へと定着を図っていく。練習が単調にならないようにゲーム的な要素を取り入れるなど、変化をもたせて練習を積み重ねていきたい。

(2) 児童の実態

対象児童 A 児(2年男児)は、1年の3学期から週1時間通級している。「キ」以外の「カ」行音は「タ」行音に、「ギ」以外の「ガ」行音は「ダ」行音に完全に置換している。例えば『みかん』 『みたん』、『とけい』 『とてい』、『ごはん』 『どはん』などである。本児は、発音の誤りに気付いている。失敗したとき、周りは間違いを指摘することなく、よりよい仲間関係ができていく。しかし、自分から積極的に関わるといった面では弱い面がある。

今までの指導で、「カ行音」と「タ行音」を聞き分けることやうがいをするなどで、カ行音練習の基礎作りを行ってきた。しかし、カ行音を意識しすぎるために舌に力が入りすぎて、舌が奥に引っ張られていくことがある。これらのことから、A 児に付けたい力を次のように考えた。

人間関係の形成(他者とのかかわりの基礎に関すること)	コミュニケーション(言語の受容と表出に関すること)
・カ行音を使った単語や文を発声して、生活や学習につなげる。 ・自分の発音の誤りを気にせず、周りと積極的に関わろうとすることができる。	・舌の脱力ができ、水を口に含みガラガラうがいをする ことで、カ行音の構音点を意識して発音練習をする。 ・正しい「カ」行音で音読や会話ができる。

3 研究内容との関わり

【研究内容1 単元指導計画の工夫】

発音の指導では、その方法を理解し、設定された段階で繰り返し練習して身に付ける。段階を踏んで、さらに日常生活に汎化、定着していく。以下の表は構音指導の一般的な単元指導計画であるが、児童の実態や発音レベルの状態によっては、この表の流れの通りにはならない場合もある。

段階	ねらい	主な指導内容	評価規準
構音器官を育てる	・正しい音をつくるために構音器官の運動機能の基礎的な力を身に付ける。	・ゲーム的な要素を取り入れた楽しい活動内容 ・声を出す練習 ・息を舌の正中線からまっすぐ出す練習 ・母音の口形と発音練習	・口腔機能訓練に関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。 3 (1) ・母音の口形、舌の位置に気を付けて発音している。 6 (2)
耳を育てる	・正誤音を聞き分けるための基礎的な力を身に付ける。	・聞き分け ・異同弁別 ・正誤弁別	・正しい音を聞き分けている。 6 (2)
構音練習	・構音方法を知り、正しい音をつくり出すことができる。	・子音づくり ・単音づくり(母音連結)	・正しい構音の仕方に気付いている。 6 (2) ・正しい舌使いで単音を発音している。 6 (2)
	・つくり出した正しい音を様々な単語や短文の中で使うことができる。	・無意味音で練習 ・有意味音で練習	・正しい舌使いで単語や短文を発音している。 6 (2)
	・正しい音の習熟を図る。	・文の中で練習 ・会話の中で練習	・音読や会話の中で、正しい舌使いで発音している。 3 (1)

【研究内容2 児童が楽しく学べる指導過程の工夫】

(1) 見通しをもつことのできる導入の工夫

学習の流れをパターン化し、見通しをもちやすくする。

お話タイム(身近なできごとを話す。)

口腔機能訓練(口や舌の体操)

発音練習

日常会話に近い状態での発音練習(神経衰弱、すごろく、ピンゴゲームなどを通して)

(2) 感覚(視覚的・聴覚的)を利用した支援

- ・楽しめるような指導用お菓子を利用する。
- ・奥舌が上がっている口腔の絵などを使ってカ行音の構音点を視覚的に知らせ、意識化させる。
- ・課題音の発音をタブレット型コンピュータで録画したものを再生して、自分の舌がどうなっているか、音がどうなっているかを視覚的に実感させて学習の意欲化を図る。
- ・鏡を使い、正しい発音の定着に関する口腔機能の練習や口・舌の体操を行うことで、自分で確認させる。
- ・写真や「口形シート」を使って母音の口形が確認できるようにする。
- ・録音機器を準備し、自分で発音を聞き分けられるようにする。

(3) 学習意欲を高めるための個に応じた指導・援助

- ・ 日常会話に近い話し方になったとき、正しい発音をする意識が薄れて歪んだ「カ」行音にもどってしまう。
タブレット型コンピュータで録画したものを再生して、自分の口形を確かめたり、発音の違いを聞き分けたりしながら自ら発音の状態を知るようにする。
- ・ 前後に無意味音を付けると歪む。
単音ずつゆっくり発音し、それぞれの音の発音の仕方を確かめながら徐々に速くし、普通の速さで言えるようになる。

4 単元の目標

構音点と口の形に気を付けて「カ」行音を正しく発音することができる。6 (2)

自分から進んで関わろうとする態度を育てる。3 (1)

5 単元指導計画(カ音指導10時間)

	ねらい	学習内容	指導・支援
1 次 (2)	「カ」音を正しく発音することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・短くうがいをして「k」を誘導する。 ・「k」+「あー」の間隔を狭め、「カ」を導く。 ・「カ」の単音を導き固定する。 ・「カ」「カ」と2回繰り返したり、3～5回へと繰り返す数を増やしたりして発音する。 ・繰り返す速さを変えたり、節やリズムをつけて発音したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・奥舌が上がっている口腔の絵などを使って「カ」音の構音点を視覚的に知らせ、意識化させる。 ・タブレット型コンピュータで録画したものを再生して、自分の舌がどうなっているか、音がどうなっているかを視覚的に実感できるようにする。 ・下顎を動かさないようにするために指導用お菓子を使う。
2 次 (2)	「カ」音の連続や無意味音節に続いて正しく発音することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「カ」音に母音をつけて発音する。 カ+母音 母音+カ 母音+カ+母音 ・「カ」音に他の子音をつないで、2音節、3音節で、ゆっくり確実に言えるまで練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1次で練習した内容を繰り返しながら練習を進める。 ・毎時間タブレット型コンピュータで録画したものを再生して、舌の位置や発音を自己評価させる。 ・言いにくそうな無意味音節は繰り返し発音したり、後でもう一度練習したりして安定させる。
3 次 (4)	単語レベルで「カ」音を正しく発音することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「カ」音の語頭・語尾・語中の単語の発音練習をする。 ・録音を聞いて、正しく発音できていない単語を使って、「すごろく」や「ピングゲーム」を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・練習した単語を録音し、教師の音との違いを理解しやすいように支援する。 ・正しく発音できた単語にはシールを貼って練習した成果を形として残し、達成感をもつことができるようにする。
4 次 (2)	「カ」音が複数含まれた短文を相手に伝わるように正しく読むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「カ」音が複数含まれた短文を繰り返し練習する。 ・録音して正しく発音できているか確認する。 ・「カ」がたくさん入った絵本を読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短文の中の単語を取り出し練習することで、自信をもって短文が読めるように支援する。 ・無理な場合は、基本の音出しを行う。

「カ」音が定着したら、「コ」「ク」「ケ」の指導を同様の流れで指導していく。

6 本時のねらい

口の体操や舌の運動などの訓練を通して、「カ」音を単語や短文の中で正しく発音するためには、下顎を動かさず奥舌を上げることで構音できることに気付き、ゲームの中でも正しい舌の使い方を意識しながら発音できる。

7 本時の展開(8 / 10)

	ねらい	学習活動	指導・援助 評価規準
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習内容を確認し見通しをもつことができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 今日の学習メニューを知る。 「お話タイム」をする。 <ul style="list-style-type: none"> 身近な出来事を話す。 「口と舌の体操」をする。 <ul style="list-style-type: none"> 口を大きく開けて閉じる。 唇をとがらせて引く。 ふんわり舌を作る。 舌先を上下する。 	本時の学習内容をカードで掲示し、児童に見通しがもてるようにする。 視覚化 どのように動かすかが分かるように絵カードを見せる。 視覚化
カ音の発音に気を付けて、ビンゴゲームをしよう。			
活動する	<ul style="list-style-type: none"> 発音の仕方が分かる。 単語レベルで「カ」音を正しく発音することができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 「カ」の発音の仕方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> 舌先を下歯茎に付けて、構音点を意識して発音する。 「カ」と置換する「タ」のカードを使って、「カタカタカタ…」の練習をする。 「パタカパタカ…」と5回言う。 「カ」の付く単語の発音練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> 自分の発音と教師の発音を聞き比べて振り返る。 発音がはっきりしないときはもう一度言い直す。 ビンゴゲームで楽しく遊び、自分の発音を聞き分け、正しく発音する。 <ul style="list-style-type: none"> 言いにくい単語を16個選ぶ。 ビンゴカードの好きなところに単語を書く。 カードを引いて単語を読む。 引いたカードの単語を発音して、 を付ける。 	奥舌が上がっている口腔の絵などを使って「カ」音の構音点を視覚的に知らせ、意識化させる。 視覚化 タブレット型コンピュータで録画したものを再生して、音とともに自分の口形や舌がどうなっているかを視覚的に実感できるようにする。 視覚化 正しく発音できた単語にはシールを貼って、練習した成果を形として残り、達成感をもつことができるように支援する。 焦点化 ゲーム中もタブレット型コンピュータで部分的に録画したものを再生していく。 視覚化 参観者にも正しい発音ができたときに認めてもらい、自己肯定感を高める。
振り返る	<ul style="list-style-type: none"> 本時の活動を振り返り、がんばったことやできたことを言葉で表現することができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 本時の振り返りをする。 <ul style="list-style-type: none"> 本時録画したものを再生して、自己評価をする。 終わりのあいさつをする。 	評価規準 ゲームの中でも「カ」音の正しい舌の使い方を意識して、発音している。 <div style="text-align: right;">6 - (2)</div>

